

## 歩道の維持管理作業（補修等）作業計画に対する

### 登山道技術指針運用・活用ワーキンググループ意見（事務局まとめ）

計画者：NPO法人大雪山自然学校 担当：藤 このみ

事務局受付：令和元年6月5日（表大雪地域登山道情報交換会の資料として提出）

#### （分散排水工の設置について）

- 導流工の施工は一か所でしょうか。導流工設置については、2015年「たまには山へ恩返し」イベントの時に同場所の上流部に一つ設置しました。その時の計画では今回設置予定の場所も含めてさらに2か所の導流工を配置する予定でしたが、時間なく次の施工機会もなく過ぎていましたので、ありがたく思います。施工予定箇所の上流部に2015年に設置したものは、①緩やかな階段にする②分散排水するために一か所の水量を少なくするなどのために排水量を抑えた設定にしています。地形を見ても、もともとはピンポイントで流れがあったわけではなく、数か所の緩やかな場所から水が抜けているのがわかります。一か所で大量の水を抜くのではなく、もう二つほどの導流工があつて初めてこの付近の流水処理が完成すると思います。（岡崎委員）
- 現地は水の流し方を十分検討する必要がある場所です。今回の計画書上で水色に図示された登山道について、このような施工を自分自身で検討したことはありませんが、分散排水工を多くすることが今のところの解決策のように見えます。（三木委員）

#### （排水先について）

- 写真④施工予定箇所について、すでに現地でご確認はいただいているものと思いますし、計画書上に「排水先にはしっかりとした植物帯があり、傾斜も緩いため、洗掘などは起こりにくいと考える（施工概略図）」と述べられていますので問題はないのだらうと思いますが、念のため、排水先地点の植生への影響に関して、急傾斜になる地点までの距離や急傾斜になった先の状況などを含めて、極力問題の生じない地点であることを再度、ご確認いただけると良いと思います。（渡辺委員）

#### （床止め処理について）

- 2016年に洗掘された後、昨年7月2～3日の大雨時にも少々の砂利流出があつたと記憶しています。ただし、導流工により流水処理ができれば、石を埋め込むなどの掘削工は必要なく、砂利を撒く程度の施工でも良いかと思います。（岡崎委員）。

#### （観光客に対応した歩行路の確保・大雪山グレードとの関係について）

- 姿見園地は大雪山グレード1の場所であり、赤ちゃんを抱えたお母さんや高齢で足弱の方も多く見かけ、また、雨天時にも多くの観光客が歩く遊歩道です。  
一方、計画書の写真②のような飛び石処理は登山道整備の方法であるため、登山道整備と遊歩道整備の違いを考え、観光客を含め誰もがしっかりと歩ける規模にすることを望みます。（岡崎委員）
- 計画書の太線水色の区間は、大雨時には水没するので、装備の良くない観光客のために「飛石」の設置が望まれるのではないのでしょうか。（三木委員）

#### （その他について）

- 写真③について、「堆積した土砂は除去済み」とのことで、この地点の継続的な観察を継続して行っていただけると良いと思いました。地元の組織故に可能なことだと思います。（渡辺委員）